

造形教育研究部会

I 研究テーマ

「子どもたち一人一人のよさや可能性を生かすための支援のあり方」

II 研究テーマ設定の理由

図工とは、子どもたち一人一人が自分の思いや願いを実現することができる教科である。単に教師から教えられた技術・技法を身につけるのではなく、心豊かに、主体的に判断しながら表現活動をしていくことを通し自分らしさを発揮する。そんな図工にしていくために、画一的な学習活動や指導に偏ることなく、一人一人の子どもたちに自分自身を見つめさせること、身の回りにあるおもしろさを発見させること、表現力や創造性を伸ばすことを大切にしながら、「個に応じた指導や学習はどうあるべきか」「発達段階に適した題材をどのように教材化し、どのように提示していくか」「子どもたちが種々の創作活動をするときに、どのような材料が効果的か」「評価はどうあるべきか」「評価が子どもたちにとって目的（指標）になり得るものか」といったことについての研究を深めていくことが重要になってくる。

学力偏重の考えの中で、図工に対し厳しい見方もあるが、子どもたちが自分の思いや願いを表現していく上でとても大切な教科であることを鑑み、さらに研究を深めていくことを目指し、本テーマを設定している。

III 研究の経過と内容

1 研究の経過

- | | | |
|-------|--------|---|
| 【第1回】 | 4 / 10 | ・部会総会（役員・テーマの決定、部会員構成）
・小学校部会（小学校部会役員・テーマ、研究内容の確認） |
| 【第2回】 | 5 / 13 | ・第49次春季全体集会
・小学校部会（基調提案・運営方針について）
・ブロック別討議（年間計画ほか） |
| 【第3回】 | 6 / 17 | ・ブロック別（ブロックの年間計画による活動） |
| 【第4回】 | 8 / 7 | ・ブロック別（ブロックの年間計画による活動）
【午前】県立美術館での学習会
【午後】全体集会（アイメッセ） |
| 【第5回】 | 8 / 20 | ・ブロック別（関ブロ授業・県教研提案授業指導案検討） |
| 【第6回】 | 9 / 4 | ・研究授業（玉諸小 丸山先生） |
| 【第7回】 | 10 / 2 | ・ブロック別（ブロックの年間計画による活動） |
| 【第8回】 | 11 / 4 | ・ブロック別（ブロックの年間計画による活動） |
| 【第9回】 | 1 / 27 | ・小学校部会（反省と課題、会計報告、県教研還流報告など） |

2 研究内容

小学校造形研究部会は、本年度24名の部員が、「低学年ブロック」（10名）と「高学年ブロック」（14名）という2ブロック体制で研究を推進した。

（1）低学年ブロックの研究

①研究過程と内容

- 5 / 15 研究実践授業単元検討
- 6 / 17 実践報告・教材研究（キネテックサンド）、研究授業指導案検討
- 8 / 7 県立美術館での隣地研修
- 8 / 20 関ブロ指導案検討
- 9 / 4 教育研究集会1年授業実践（玉諸小・丸山恵理子先生）
- 10 / 2 実践報告
- 11 / 4 実践報告、教材研究（Kクレイ・ペンてるクレヨン）

②研究の成果と課題

低学年ブロックでは、一人一実践・県教研の指導案検討・教材研究の3つの柱で研究を深めた。実践発表は、造形遊び・表現・鑑賞などの領域から各自でテーマに沿って課題を決定し、実践をした。どの実践も低学年の児童にとって身近な材料を利用した活動であったり、自分たちの視覚や聴覚、触覚といった感覚を大切にされた活動であったりと児童のよさを引き出す工夫のある内容だった。指導案検討では、授業に生かせる教材選びから考え、実践を参観し、研修を深めた。感覚や気持ちを生かしながらかついたり、色や形を考えたりといった造形遊びの授業に活用できる研究となり、成果が見られた。また、新教材を実際に持ち寄り、その特性を学習することで、今後の授業に生かせる、大変有意義な検討ができた。今後も子どもたちのよさ、感覚を大切に、子どもたちの思いが表れるような実践を行っていききたい。

（2）高学年ブロック

①研究経過と内容

- 6 / 17 実践報告 小田切教諭（山城小） 白井教諭（貢川小）
- 8 / 20 関ブロ指導案検討 佐野教諭（附属小）「さらさらさら きらきらきら」
山田教諭（附属小）「わたしのMORI」
- 10 / 2 実践報告 古屋教諭（東小） 三枝教諭（国母小） 堀江教諭（東小）
中込教諭（湯田小） 今井教諭（大國小）
- 11 / 4 実践報告 秋元教諭（国母小） 坂本教諭（甲運小） 藤原教諭（玉諸小）
望月教諭（大國小） 内藤教諭（舞鶴小）

②研究内容と成果・課題

発表された個々の実践は、教科書の題材をベースにしながら、児童の実態や発達段階に即した独自の工夫が凝らされていたので、部員が自身の指導を行うに当たる際、示唆に富

むものであった。また、指導上の悩みや抱えている問題についても出されたが、それぞれの経験の中から、アドバイスを出し合い今後に生かせる研究となった。

課題としては、次年度教科書の改訂があり、新しい題材が出てくることが予想されるので、それらの指導法や支援の在り方について、知恵を出し合い議論することを研究内容に加えていく必要がある。

3 教育祭図工・美術作品展の成果と課題

(1) 成 果

今年度も作品展準備後に学習会を開催した。石川先生を講師にお招きし本年度の作品の傾向や指導上のポイントなどについて、学年ごと特徴のある作品を例に挙げながら解説・ご指導をいただいた。異なる題材の集まった作品について発達段階を追って専門的なお話を聞く機会は大変貴重であるという感想が多く聞かれ、有意義な学習会となった。

例年のことであるが、各校行事等で忙しい中での取り組みであったが、作品展に展示された作品はどれもすばらしいものばかりだった。それぞれの学校が「思いをひろげて」のテーマの中で各学年の教育課程に合わせながら行っていたようである。子どもたちの思いを大切にしながら、先生方が指導の工夫をされていることが本年度も十分感じられる作品展になった。

(2) 課 題

この大会が1年に1回の図工的な行事であることの意義をとらえ、この機会に全校共理解のもと学ぼうという姿勢で取り組むことが大切だと言える。これからも、ただ技術を高めるのではなく、子どもたちに自分の思いを表現する喜びを味わわせる事ができる図工教育を目指していきたい。

IV 研究の反省と課題

今年度も、「低・高学年」の二つのブロックに分かれ、それぞれのブロックで各自が実践した内容を持ち寄り研究活動を行ってきた。それに加え、本年度は、本県で全国・関ブロ造形教育研究会が開かれたこと、小学校部会から県教研へ授業提案するということがあったということで、そちらについても協力し研究を深めることができた。

本部会はそれぞれのブロックが研究するのに適した人数配分になっていたのも、一人ひとりが持ち寄ってきた実践を検証する機会をもつことができた。各自が実践した子どもたちの作品等を持ち寄り、実際にその作品を見ながら学習することは、指導内容をより具体的にイメージすることができる。また、少人数なので意見が出しやすく、いろいろなアイデアも出され、今後の授業に生きる研究会となった。

今年度の方法を踏襲しながら、来年度は、教科書も一部変更になるので、その内容についての学習も進めていきたい。そして、さらに子どもたちが自分の思いを十分に発揮できるような授業作りを心がけていきたい。